

令和元年度第1回学校教育審議会 記録

令和元年6月26日15:00～

市役所東庁舎 第2会議室

〔出席委員〕河村壮一郎、西坂千代子、吉田知子、岡野壮人、松田恵、衣笠尚義、瀬尾津喜恵

藤山正明、池原和彦、名越和範、笠見猛、森下哲哉、山下千之、佐々木敬宗（敬称略）

1 開会	
司会 教育長	開会の宣言 開会挨拶
全員順番に	自己紹介
司会	資料確認・会の時間の予定確認
2 報告	
事務局	協議事項（1）（2）について資料に沿って説明
3 協議	
会長	できるだけ皆さんから多くのご意見をいただきたい。 （1）の「重点施策に係る現状と課題」について質問はあるか。重点施策について昨年度と変わっていないのか。
教育長	大きくは変わっていない。
事務局	細かいところでの変更点として、「教育の創造」のところで、働き方改革のことを加えさせていただいている。また、適正配置については引き続いて入れている。「学力、豊かな心とたくましい体の育成」「倉吉に誇りと愛着をもつ子どもの育成」「家庭と地域が連携した開かれた学校づくり」「よりよい倉吉教育をめざして」のあたりは、大きくは変動していない。今まで読み書きのところでMIM（註：読みの能力を把握し向上させるアセスメント及び指導方法）という取組をしていたが、国事業が終了した。新たなことは加えていない。
委員	昨今の夏の暑さということで小中学校のエアコンの環境整備のことがあるが、現状はどのような進捗状況か。他の部署にも大きな影響を与えていて、欲しいところにまだ届かない状況がある。倉吉の小中学校のエアコンの配置の状況はいつぐらいで、今年には可能なのか。
事務局	遅くとも本年度の末までには全学校普通教室に設置したいと考えている。夏には業者、機器の関係で難しいことが分かっているので、何とか来年の3月までに設置工事を完了したい。
教育長	何とか夏までに1台でも2台でもつけたかったが、設計をしてくださる業者のこととか機材の確保のことで日本中が一斉なので難しくなってしまった。本当は昨年の事業であるが、繰り越して今年度に工事をしている。ほぼ日本中の小中学校で行われている状況であり、本当に申し訳ない。
委員	普通教室とおっしゃったが、それ以外の理科室などの教室はどう対応しているか。
教育長	特別教室というが、ある程度の割合で既に入っている。倉吉の特別教室のエアコン設置率は高い。昨年、小学校はエアコンのある教室をローテーションで使ってもらうなど工夫していた。大型扇風機もあるので、何とかこの夏、しのいでいただきたいと考えている。
委員	不登校の背景要因が分かっている範囲で教えていただけないか。
事務局	不登校の要因の割合が多いこととして家庭状況のことがある。最近の保護者の方の傾向として、子どもたちを押し出していただけでない、あるいは子どもが「家にいたい」と言ったら、それを認めてしまうということがある。
教育長	一般的には、特に中学生であるが、やはり勉強が分からないということがきっかけになるケースがある。また、児童生徒が医療にかかっている、人前に出にくい、人とのやり取りができていないというケースもある。なかなか不登校の要因をまとめて説明するのは難しいところがある。要因がそれぞれ複雑なところがあり、様々なケースがある。

委員	<p>不登校の総数がなかなか減らない。復帰している子たちもある程度いるが、総数が変わらないということは新規の子たちが次々に出ているということである。</p> <p>育っていく過程で階段をしっかりと上って行って積み上げていかないと、思春期になっていろいろなことがわかってきたりとか親離れをしたりとかいうときに、踏ん張れない。土台がしっかりとつくってないとストンと落ちてしまうということがあって、もう一度育て直しとか階段を上るといような作業をしていって、何とか立ち直るといことを中学校の時にできたらいいが、それができないと引きこもりとかそういうことになってしまう。中学校の時に何とかがんばれたりするとその後、うまくいくケースもかなりあるので、中学校の時が勝負かなと思う。</p>
委員	<p>今まで関わってきたケースを見てみると、小さい時から親子関係が崩れていることが多い。保護者が子離れしないとか子どもが親離れできないということがある中で、最初のうちはまだ傷口が小さいが、その時に押し出すということもできるが、だんだん休むことが長くなってくると、まあいいやとかということになり、中学生になると今度は怠惰な方が出てくる。複雑にいろいろなことが重なっているが、実際の芽は、親子関係からみていくと乳幼児期のうちから危険性を持ちながら成長していると感じる。</p>
委員	<p>不登校の子どもが学校に出てきた時に、教室に行くものなのか、どこか別室に行くものなのか。</p>
教育長	<p>いろいろある。例えば、部活動だけに来るとか、友達が下校してから少しだけ来るとか。普通に教室に入ってくることもある。こういうふうにすればこういうふうに戻れるというのは説明しにくい。</p>
委員	<p>広島の実験で、別室のふれあいルームのようなものをつくって、そちらに登校するような取組をしたら、わりと登校できる子どもが増えて、その中で学習しているというのを先日テレビで見たが、倉吉市にはそういうものがあるか。</p>
教育長	<p>中学校には相談室がある。相談室に行きにくい時は保健室でみてもらうこともある。</p>
委員	<p>今、小学生から自分の子が行けるという気になるまで、小学校には行かないという選択肢を持っている方もあるようであるが。</p>
委員	<p>親としては学校に不満があるわけではないが、あくまでも本人の判断に任せるといことで、学校には登校しないケースもある。学校ありきの価値観ではないという部分も出てきている。</p>
委員	<p>もうそこが認められてくると、こちらサイドから学校に来ないから電話をかけても電話に出ないということが悪ではなくなってしまう。学校という組織が必要ないと思っている保護者がいるということになってしまう。</p>
委員	<p>学校の域というところの根本のところを話していかないといけない。</p>
会長	<p>私がイメージしてたのは、親子関係が難しい状況があつて、多少のストレスに対して難しい状況がある子が授業につまずくとか、友達関係で問題が起こったとか、部活動のことで何かあつたときに、それがきっかけで休む。保護者としては学校で起こったので学校に責任があつて学校がよくないのではと思ひやすい。教員の方からすると親子関係に原因があるのではと思ひやすい。そういうすれ違いがあるのではと思ひてきていたが、今話を聞いているとそういうわけでもなくて、全く価値観が違ふところですれ違いになっているということもある。</p>
教育長	<p>スクールソーシャルワーカーという職の方を学校教育課に来ていただけるようにしている。個別に家庭に入っていて、ケースによっては、子どもというより保護者の支援をしてもらって、子どもを安定させるという手法をとっているところもある。個別に入っていてまず話を聞くといふところでないと打てる手がないところもある。</p>
委員	<p>休んでいる子の影響といふのも若干ある。同じ学年の子どもが家で「なぜ～〇</p>

	<p>○さんは休んでいるのか。私も行きたくない。」と話をしている。給食が嫌だから行きたくない、水泳が嫌だから行きたくないと言っていて、おうちの人がかなり困っていて、今は送り迎え状態。毎日、行きたくないと言っている。</p>
教育長	<p>学校でないところでの教育、学びについては、文部科学省でも多様性があると言っている。ただ、その子が小学生になったとき、中学生、高校生になったときにどう育つのかというのが、もう少し経ったら見えてくるのではないかと。公教育もそうであるが、100%思うように育つとは思っていない。どこかで壁にぶつかったりひずみも出たりしてくるのではないかと。そうならばその時の価値観もまた変わったりしてくるのではないかと。</p>
委員	<p>ここ数年、学校公開のボランティアをしているが、授業中に座ってられない子が増えたなと感じる。1年生で「トイレに行ってきます」とか「手を洗ってきます」と行って教室を出る子が何人かいた。好きなことを好きなようにさせてきた結果がこういう形で出てきてしまっているのではないかと。今の保育園は朝行ったらこの時間、この活動をしてくださいというのがあり、子どもにとってかわいそうだから保育士をやめたという人がいた。子どもの目線からいえば、大人が決めたルールに従わされていやだという気持ちもあるかもしれないが、基本的な生活習慣を身に付けさせてやらないとこれから先に困る。仕事を始めるようになっても気に入らないから明日からは行きませんという大人も出てきてしまっている。だから、子どもを変えるというより大人を変えないとどうにもならないのではないかと感じることもある。</p>
委員	<p>幼少期からの積み重ねで、急に中学生からの不登校の状況が突然出るわけではなくて、これまで積み上げられてきたものの中に現状がある。保育園の時期に行政も入って教育をしているが、その頃から気になるお子さんはいる。その要因が確かに家庭環境というところもあれば、多様な価値観の中の親の考えというものもある。一概にそれがいけないということではなくて、一つ一つのケースをきちんと向き合うしかない。ただ、これから大きくなり社会に出ていくという状況の中で基本的なところでのルールや思いやり、自分だけが生きているわけではないので、そのあたりの考え方をどう育てるのか。何かいやなことがあったらそこから逃げるのではなくて、幼少期にどれだけがんばる力をつけてやれるのか。いつまでも親がついていくわけではないので、その時期に自分で歩を進めていくときに必ずやってくる。その時に幼少期に育まれたがんばり力がそこで試される。そう考えると幼少期に何とかしたいと思っているが、なかなか親に届かない。今困っていないので、元気にいってくれたらいい。やがてはという話をしても、まだまだ身近な問題にとらえられない。のびのびとみたいな育て方をされる方も多い。いろいろなことを吸収する時期でもある。先ほど座れないという話があったが、小学校に行ったら保育園とは違ってある限られた時間、先生の話聞く時間がある。聞く訓練を幼少期にしなければということがあるので、地域資源の一環で住職さんに来ていただいて座禅をしている。それもすべての解決策だとは思っていないが、バランスよく取り組んでいくことが大切だと思っている。</p>
委員	<p>素朴な疑問であるが、義務教育の義務を放棄してしまって、社会的にこれは義務ですよということがきちんと伝わるようなことがなくていいのか。行かなくても卒業という経歴がつくのかと思うと矛盾を感じる。</p>
委員	<p>学校に行かないで小学校や中学校を卒業になるのは、それでいいのかと思う。病気で遅れたから、それを1年から始めて3年で卒業するという時期もあった。今は不登校でも3年後には卒業してしまうのはどうなのかと思う。留年がある国もある。エスカレーターみたいに押し出して卒業証書を渡して終わりというのは、今の教育機会確保法にもあっていないのではと思うこともある。</p> <p>親の責任、子育ての責任についてであるが、今、生まれて90、100まで生きる家族関係の中で殺人とかいろいろなことが起こっている。結局、根っこは家</p>

	<p>族関係、愛着関係がなくいろいろなことが起きている。不登校もいじめも非行もそこに根っこがある。家族の責任、親の責任はどこにってしまったのかと思う。赤ちゃんふれあい会もやっている。でも子育ての第一の責任は、お父さん、お母さん、命を生み出した人たちであるというのがとんでしまっている気がする。自分は覚悟をして子どもたちを生んできたが、そこが抜けているのではないか。</p> <p>自分は福祉のサービスする側であるが、あまりにも至れり尽くせりみたいなどころをしてきてしまったのではないかと反省している。ここだけはおうちで、ここだけはおじいちゃん、おばあちゃんの力を借りてもいいので親御さんでというところを訴えていかないといけないのではないか。すべてが保育園に行つて、小学校に行つて、学童に行つて、空いていれば児童館に行つてと、頼れるところはいろいろ頼る。それもあるかもしれないが、まずは第一に保護者がどんなふう子どもを見てきたのか、手をかけてきたのか。手をかけてもいいが、だんだんと離していかないといけない、子どもは離れていくからというところも教えていかないといけない。やはり、もとは家だろうと思う。それでなおかつ協力できるところは、地域全体でやっていきましょうということだと思ふ。そうでないと、子どものときに好き勝手やっていたら、折れたときに立ち直れない。子どものときよりもいっそう困難な課題が大人になったら待ち受けている。だから、ある程度負荷をかけつつ子育ての段階を経ていかないと、折れそうになったときに跳ね返すことができなくなってしまう。そこが今弱くなつていて、子どもたちが大人になったとき、どんな社会になるのかと思つてしまう。</p>
委員	<p>そこに保護者に気付いていただけたらよいが、そうでない保護者にどうしたら認識してもらえるか。その方法が難しい。そう思つてもらふための働きかけが難しい。</p>
委員	<p>子ども達は家に閉じ込めると、何もこちらがしかけられない。とにかく家から出してほしい。そうすれば、子どもには何らかの刺激が入る。外に出れば、見つけて手をかけてくれる人もいる。</p>
委員	<p>中学校が義務教育の最後になるので、卒業後に何とか社会やいろいろな人つながりながら働いたり勉強したりするようにしてやらないといけないと考えている。卒業をして社会とつながりをもって働きたいとなればよいが、進路先が築けない子も0ではない。中には1年後に働き始めたりとかいう子もいるので、卒業させておかないといけないというのもある。</p>
会長	<p>何でも学校で考えてくださいということになつてしまつていて、たいへんだと思う。学校に期待する内容が増えると同時に、何が期待されるべきかというところが曖昧になつていないか。最初の頃は、学校は勉強をするところなので、「学力をつけさせてください。しつけは家庭でやります」という役割分担だった。途中、私立の中学校をめざすようなところが出てきて、「勉強はうちの方でさせますから、学校はしつけをお願いします。」となつてきた。最近になると、「うちの子にすべてあうようにしてください」というような要求の仕方になつてきている。「よくばりすぎる日本の教育」という本があるが、それを読むと教育関係者がいろいろな社会からの要求を受け入れてやってきた結果、働き方改革が必要なくらい仕事をしないとイケない状況になつてしまつていて。もう少しシンプルに教育を考えないと、ますますひどくなるように思う。教育委員会で結論を出すことは難しいと思うが、そういうことについて学校はこういうところですというようなものをもう少しシンプルに合意形成を図っていく必要がある。</p>
委員	<p>他の中学校との連携、情報交換はいいと思う。うまくいっていることが他の学校の参考になるし、お互いに苦労していることも情報交換したらいい。そういった中で自分の学校だけで抱え込まないことは重要だと思う。担任はクラスに不登校の生徒がいたら負担だと思うので、多くの先生が関わつていただく体制が必要</p>

	である。
会長	問題行動のデータを見ると、いじめのところが傾向として増えているように見える。これはアンテナを高くして認定しているということで考えたらよいか。
事務局	学校にはいじめの積極的な認知ということで、文部科学省が出しているいじめの定義に照らし、受けた側の気持ちに寄り添って、どんな小さな問題でも計上するよう依頼している。
会長	学力のデータのことであるが、中学校2年生は改善傾向にあるということであった。小学校の5年生（※現6年生）が他の学年に比べると2ポイントぐらい高い。全国の偏差値の中でこれはけっこう大きな差である。倉吉市全体でこの学年が高い原因というか、教育委員会としてはこういうことかもしれないというものをつかんでいるか。
事務局	そこまでは分析できていない。
会長	低い時ももちろんそうであるが、高い時も分析して生かすこともできる。悪い方にばかりでなく、よい時も分析できるならしていただいて、そういうことが広まればと思う。かなり有意な差であると思う。（5段階の）2と5の違いであるが、5が多くなって2が減っている。3や4の傾向はあまり変わらない。そこが5年生はかなりうまくいっていると思った。
委員	猛暑で夏休みのあり方が変わってくるのかと思うが、歩いていってプールに行くということは、今年もされるのか。
教育長	今年はまだ状況を見てということ。去年のような暑さであれば中止を検討する学校も増える。
委員	クーラーを使うとかプールがなくなるということで過ごし方が変わるのかと思う。心も体も外に出ていく子どももいると思うし、やはりゲームを使う子どもも多いだろうし、夏休みの過ごし方を考えていかなければならない時期だと思う。
委員	外国にルーツをもつ子どものことであるが、外国に籍をもつ子どももいるだろうし、（両親の）どちらかが外国の方ということもだんだん増えてきていると思うが、対応が難しいということはないか。
事務局	対応であるが、外国から戻ってこられるとか、あるいは日本語は話せないという時には、予算を組んでいるので日本語を個別に教えている。国際交流協会等に頼んで講師の方に来ていただくなどしている。本年度、昨年度は予算を執行していないが、一昨年には対応した例がある。
委員	今、高2の子であるが、あまり日本語が話せない状況でこちらにやってきて、通訳を付けていただいて普通に授業を受けて、希望に近い形で進学をすることができた。
委員	今まで関わってきた中で、お母さんが外国の方で、小学校の時や中学校の時にいじめの対象になった子どもがいた。保護者がなかなか日本語を話せないということで、子どもが間に入る。子どもが学校のことをおうちの人に伝えていたが、低学年の時からそういう役割を担わされる。中学校になって進路のことも、おうちの方には日本の受験制度だとか学校の体制がわからないので相談にのったこともあったが、子どもが学校と保護者の間に入るという時に誰かが支えてあげないとその子はしんどくなってしまふ。いじめのケースでも学校に行きたくないということになってしまふし、言葉の問題とかいろいろなことだんだん学校に行きづらくなる。学校との関係がよくても 家に引っ込んでしまふこともある。そのあたりはよく注意してみていかなければと思っている。
委員	人権の視点で考えると、部落問題やLGBTの問題でも学校はこれから変わっていかなくてはならない。心情の部分もそうであるが、例えば、制服や更衣室などで配慮がされていくような、教育を受ける場面での環境整備をお願いしたい。
会長	小学校適正配置についての協議も行いたい。児童生徒数の推計及び中学校の部活動についての資料を見ていただきながら話をしていただきたい。ご意見・ご質

	問はないか。
委員	(部活動は) 選択肢が多い方がいい。小学校のスポ少でも今、そんなに遠いところと合同チームを組んでいるのかという状況もあり、たいへんなことだと思う。たいてい小学校の時に経験したものを中学校にもする状況があるので、そういうことを考えると大変な状況が起こっていると思っている。部活動があっても先生の数が足りないということも起きている。個人的には部活動は社会体育の中で担っていただくのがいいと思ってきたが、日本は学校体育から離れられない。これから地域が高齢化していくとこれも維持できるのかと思う。
教育長	外部の方に部活動指導員という形で入ってもらう制度を本年度から始めた。昨年度のうちに、5つの中学校に希望を聞き、本年度、久米中の卓球部に2人入っていただいた。今までの外部指導者という捉えではなく、久米中学校の職員となる。だから試合に引率できるし、土日の練習もこの方たちだけで指導ができるようになった。この動きを見てもらって来年度以降、たぶん希望が増えてくると思うので、予算化して希望に沿えるようにしたい。
委員	なるべく経験を持っておられる方に指導していただきたい。
教育長	ただネックがあり、他の市が今の仕組みで動いているが、そういう指導ができる人で公務員が多いらしく、兼業ができない。やりたいけど受けることができない。つまり、学校ではこの人をお願いしたいがなかなかしてもらえないという状況も起こっているらしい。倉吉市では今のところそういう状況にはないが。
委員	教員の負担軽減の面でもそういったことが進んでほしい。
会長	高校も外部指導者の制度ができている。それぐらい職員が減っている。部活動の指導するのに教員の数が足りない。
委員	問題行動の関係でわかれば教えてほしい。平成24年度や27年度にいじめの人数がかなり上がっている。昨年、成人式で荒れたということがあったが、それは24年のいじめの者が騒いだということか。
教育長	そういう要因で成人式が荒れたということではないと捉えている。大津でいじめのことがあって、いじめの捉え方が本当に適切なのかということで文部科学省から通知が出た。今もそうであるが、ほとんど0で報告している県は明らかに疑われている。今まで子ども同士のトラブルということで指導していたことをいじめの方でカウントし始めたのが平成24年頃ということになるので認知した数も増えている。
委員	ちょうど、このあたりは盗みも多く、初犯をしっかりと教育しないといけない。親だけでなく関係機関と連携しながら対応が必要である。いじめもしっかり対応していかないといけないと感じた。
教育長	高ければ高いほど、きちんと子どもを見ていると今は評価されるので、市内の小中学校には丁寧に見ていただいている。細かいことでもきちんと報告が上がってきている。
委員	それがうまく改善につながっているというところはどうか。
教育長	子どもが何人か集まると、人間関係のトラブルは必ずある。本人がいじめだと捉えるといじめだとカウントするが、当然いじめた側への指導が入る。いじめられた側へもケアが入る。トラブルがあったことで一歩でも成長していけるように、人間としての力が持てるように指導していただいているので、学校が対応してくださっている数字であると捉えている。
事務局	平成23年度の盗みが多いのは、集団での盗みが多かったようである。
委員	成人式に関して社会教育的な話になるが、成人式の時に中学校単位で写真をとる。校区から出て湯梨浜中学校に進学した子が非常に成人式に出にくいという声を聞く。または中学校で不登校だった子がそういう会には出にくいという話を聞くが、そのあたりはどうにかならないだろうか。
教育長	生涯学習課には丁寧に説明するように言っているが、中学校区に住所のある方

	<p>はここで写真を撮ってくださいとしている。心配されるように、湯梨浜中学校だとか引越したということに関係なく、お住まいの住所地で写真を撮るように案内している。</p>
委員	<p>自分が成人式の頃からそうであった。結婚して来られた方も、同じ中学校でなくても、一緒に写真を撮っていた。中学校を卒業したからそこで撮るのではなく、その中学校区にいる人はここですと案内してもらっていたので、卒業したからどうこうということではなかった。</p>
委員	<p>出やすい環境にしていればよい。</p>
委員	<p>基本方針の重点施策の中に小鴨小学校の用地購入ということが記されているが、どんなロードマップであるのか。</p>
教育長	<p>小鴨小学校の用地の件であるが、小学校のすぐ前にお住まいだった方が県外に出て十何年になり、これを手放したいということであった。小学校のグラウンドと隣接しているので、倉吉市で買ってもらえないかということで価格についても折り合いが合ったので、小鴨小学校の用地として取得させていただいた。計画的ではなかったが、たまたまその方のご都合とタイミングがあった。用地のことでいえば、社小学校の前や東中学校の入り口の倉庫のところについても希望があるが、とても手が出せる金額ではないことや手続きが非常に難しいということがあり、計画的に用地を増やすという話にはなっていない。</p>
委員	<p>いつ頃、小鴨小学校の建物が建てられるのか。</p>
教育長	<p>そのような計画はない。簡易舗装して駐車場として使う。</p>
委員	<p>校舎としてではないのか。</p>
教育長	<p>たまたまその用地が公民館と校庭のちょうど間にあるので駐車場にするということである。適正配置とはまったく関係ない。</p>
委員	<p>児童数が多いので、わざと買われて今から動かれるのかと思った。</p>
委員	<p>上灘公民館であった適正配置の協議会に保護者はどのくらい参加していたのか。</p>
事務局	<p>各地域の中から1名は出ている。</p>
委員	<p>全員に声がかかっているわけではないので、小学校代表、保育園代表、地域代表など組織で話に行くということに以前はなっていた。</p>
事務局	<p>保育園の代表もいるので1名ないし、2名の方が参加している。</p>
教育長	<p>それぞれの地域から出していただく人数も地域にお任せした。概ね何人ぐらいということはお示ししたが、何人でないといけないとはしていない。一昨年までは校長先生も委員としていたが、それはやめてオブザーバー的な立場として必要があれば校長先生にも入っていただくように変更した。</p>
委員	<p>PTAの中で話し合うというようなことはしていないのか。</p>
委員	<p>(適正配置の話が始まった) 最初の頃は役員会や総会などで話していたが、だんだん薄れてきてしまって、今は役員のみでの把握に終わっている。もしくは市のPTA連合会の中で共通の認識をもっておこうというぐらいで終わっている。実際に意見として出していこうということにはなっていない。</p>
委員	<p>関心が薄れるのが一番怖い。市報でもいいし、常に進んでいるということをアピールしていかないと、何か決まったときに突然決められたという気持ちになってしまうのが心配である。</p>
教育長	<p>議会でも市民向けのシンポジウムを考えないのかというお尋ねがあった。今はそのタイミングではないが、もう少し修正案的なものに近づいていけば、倉吉市全体に説明する会をしたい。</p> <p>協議会が今動き出したので、それぞれの地域でもう一度話をさせていただく機会がきっと出てくる。そこに私たちも必要に応じて行かせていただいて、ご意見を聞きながらこちらの気持ちもお伝えしながら、ではこういうふうはどうでしょう</p>

	かということを進めていきたい。
委員	適正配置協議会には、中学校の関係者も呼ばれたのか。
事務局	小学校（の保護者）である。
会長	<p>適正配置ということに必ずしも関係あることではないが、自分が現役であったとき、こういうふうにと考えたらいいのではないかとことを職員の皆さんと話をしたことを思い出す。一人の教育を受けた人間からすると、小学校の時は〇〇先生、中学校は〇〇先生が担任であった、部活動は〇〇先生であったと個人の先生を思い出す。教育はロマンの話になって、〇〇先生がこうだったと恩師だとかそういう気持ちをもつ。</p> <p>ところが、学校の職員として見た時には個人プレーではいけない。あの先生のクラスでよかったけど私は外れたということではいけない。チームとして動かないと職場としてはいけない。受けた個人が個人的に思い出をつくるのはいいが、仕事の上では個人プレーではなくてチームでないといけない。そういう意味で、教育を語るとき、中央教育審議会でもそうであるが、個人の思い出として教育を語られる人が多くて、小説のような話になってしまう。そういうことでは施策の話にはならない。</p> <p>協議会でも意見を言いやすいのは個人の思い、経験になりやすい。そのあたりを地域だとか学校単位の集団として集まった者で、こういう方向を目指そうというような話として進んだらいいと思う。資料を見ると、「委員の方が地区の声を聞いて代表として出て来られているのだろうか」という意見があった。どういう気持ちで言われたのか、よくわからないが、ひょっとするとみんなが個人的な思いを言っているのではないかと思われたかもしれない。私たちのところではこういうふうを考えていますというような話がもう少し出てくると、議論がだんだん収束してくるのかと思う。個人的な経験とか思いを話していると拡散されてしまう。</p>
委員	<p>子どもたちのためにする適正配置だと思うので、いろいろな声があると思うが、第一にそこを考えていただきたい。町が統合していつているので、どうやって話を進めたのか聞く機会があり、聞いたときに、「うちの子は同級生に同姓の友達がない。ドッチボールをしようと思っても1年生から6年生まで強い子はずっと一緒。かけっこしても一番の子はずっと一番。勉強ができる子はずっとその子が一番できる。競う気もなく、争うこともなく、それはちょっとかわいそうだと保護者が意見をあげて、そこは統合しましょうということで話が進んでいった。」ということであった。</p> <p>確かに多くてもよくないこともあるが、少なくともよくないことがあり、いいあんばいというのがよくわからないが、そこをどうにかこうにか歩み寄って、早い段階でいろいろなことが決まっていつて、いい環境に……。いい環境といっても結果が出てみないと分からないし、どういうふうになるかなかなか難しいが……。</p>
教育長	<p>議会でも質問があつて説明させていただいたが、例えば、今の案で適正配置ができたとしても、決して大規模校ではない。一学年にせいぜい2学級かうまくいけば3学級になるかもしれないという人数である。都会でいう一学年に5学級も6学級もあつて、てんてこまいという状況にはならない。</p> <p>今、倉吉市内の小学校は、規模が一学年2学級の学校も10人いるかないかの学校も力いっぱい先生方ががんばっているので差がなく保っている。今心配されたような内容は、小さい学校の先生は意図して集団での活動を計画している。例えば、2校ないし、3校の学校の児童と一緒に学習するという交流学习を何回か組んでいる。そのための段取りを小学校の先生方はしている。決して何校かが一緒になることで弊害があるとは考えていない。それよりは校区の方がどういうふう同意が得られるのか心配している。今13の公民館がある地域のつながり</p>

	とあわないことが起こってくる場所が何か所がある。そこでどのように同意をいただくのが懸案である。
委員	<p>人口構成からいくと昔は子どもが圧倒的に多かった。学校が地域をつくる核となって担ってきたが、今は逆転して、大人が圧倒的に多いので、地域をつくるのは大人の世代がしないといけない。地域の中に学校はあるが、地域の方が地域をつくらないといけない。地域の次世代をつくる努力を地域の人間としてしないといけない。今の保護者を育てる。そういう意味で先ほどから家庭の責任ということも申し上げているが、それを伝達していくのは私たちの務めかなと思う。どういう雰囲気を持った地域、学校にしていくのかといたら、マイノリティの人たち、生活弱者も含めて排除しない、あたたかい地域をつくらないといけないと思っている。</p> <p>あの学年よかった、〇〇中よかったと思ってもらえる。荒れた子も確かにいた。でも、あの子はあるいいところがあるという仲間がいて、それを私たちが傍らから応援する。排除しないという空気を醸成していくということが、あの地域はあたたかい、住みやすいと言ってもらえると思うと、周りの大人たちが考えていかなければならないのではないかと。子どもを真ん中において、子どもたちの最善の利益を確保しながら、この子たちをどう人間らしく育てていくのか。そのために私たちはどんな役割を果たさないといけないのか。学校にお任せではなく、みんなで汗をかいてやっぺいこうという地域にしていかないと。それをしていくには大人が知恵を出していかななくてはならない。</p>
会長	長時間にわたり、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。以上で第1回の審議会を終了する。
4 閉会	